

西之表市食育・地産地消推進計画 (第3次)

『島の宝をいかす！！西之表市の健康で豊かな食』



令和8年3月策定（予定）
西之表市

目次

第一章 西之表市の概要

- (1) 地域の概要・・・・・・・・・・・・・ 1
- (2) 農林水産業の概要・・・・・・・・・・・・・ 1

第二章 計画の策定にあたって

- (1) 計画の趣旨・・・・・・・・・・・・・ 2
- (2) 食育とは・・・・・・・・・・・・・ 2
- (3) 地産地消とは・・・・・・・・・・・・・ 2
- (4) 計画の位置づけ・・・・・・・・・・・・・ 2
- (5) 計画期間・・・・・・・・・・・・・ 3
- (6) 計画における各分野の役割・・・・・・・・・・・・・ 3
- (7) 計画の評価について・・・・・・・・・・・・・ 3

第三章 食をめぐる課題

- (1) 食育・地産地消をめぐる現状・・・・・・・・・・・・・ 4
- (2) 数値目標の達成状況・・・・・・・・・・・・・ 13
- (3) 各分野での現在の取組・・・・・・・・・・・・・ 13

第四章 食育・地産地消をめぐる今後の課題

- (1) 食育について・・・・・・・・・・・・・ 15
- (2) 地産地消について・・・・・・・・・・・・・ 15
- (3) 農林水産業体験について・・・・・・・・・・・・・ 15

第五章 具体的な対策と取組

- (1) 食育に関する基本理念・・・・・・・・・・・・・ 16
- (2) 食育に関する基本方針・・・・・・・・・・・・・ 16
- (3) 各分野の推進内容・・・・・・・・・・・・・ 17
- (4) 重点目標と目標数値・・・・・・・・・・・・・ 18

第一章 西之表市の概要

（１）地域の概要

西之表市は、九州本土最南端の佐多岬から南東方向に約 40 km、鹿児島市から約 115 kmの海上にある種子島の北部に位置し、東・西・北は海に面し、南は中種子町に隣接しています。地形は、市域の大部分が海岸段丘になっており、最高点は 270mと比較的平坦な地形になっています。西之表市は、東西 8.2 km、南北 25.2 km、面積が 205.66 km²であり、種子島の総面積の約 45%を占めています。気候は、年平均気温が 21.1℃であり、黒潮の影響を受けて温暖な気候になっています。その温暖な気候を活かした農林水産業が盛んに営まれています。

（２）農林水産業の概要

西之表市の耕地面積は 3,010ha で、市の面積の約 15%を占めています。その耕地を活用し、適地適作を前提に、普通作、工芸作、園芸作、畜産等を組み合わせた農業が展開され、本市の経済を支える基幹産業となっています。特に近年では、ブランド化を進める安納芋の栽培や畜産への取組が盛んとなっています。

農業生産基盤・施設の整備や機械化の進展による作業効率の向上、農家支援組織としての西之表市農業振興公社の機能充実等もあり、農業経営の規模拡大は進んでおり、大型専業農家が育ちつつあります。しかしながら、農業者の高齢化や後継者不足による農業労働力の低下、不安定な気象条件や農業資材の高騰等により農業生産額は減少傾向となっていることから、引き続き、本市農業の中核を担う農業後継者の確保・育成が課題となっています。

水産業については、トビウオ、サバ、カツオ、キビナゴ、ミズイカ（アオリイカ）を対象とした網漁業や一本釣り漁業が主流であり、その他にも地域の特産であるナガラメ（トコブシ）採捕などが行われています。また、本市はブリ養殖用の種苗であるモジャコの重要な生産地となっており、モジャコ漁は本市の総水揚額の大半を占める基幹漁業となっています。

しかしながら、漁業者の高齢化が進んでおり、担い手不足が深刻な問題となっています。

また、気候変動に伴う自然環境の変化により漁業生産量が減少傾向にあり、藻場の減少による資源状況の悪化や魚価の低迷、魚離れによる魚の消費量の減少など、水産業を取り巻く環境は年々厳しさを増しています。

また、林業については、人工林を活用した建築用材やパルプ用材が主となっています。本市の森林面積は 12,233ha で、市の総面積の約 59%を占めています。この豊富な森林資源は、市民に豊かな水を供給しています。

第二章 計画の策定にあたって

（１）計画策定の趣旨

「食」は、命の源であり、私たち人間が生きていくためには欠かせないものです。また、国民が健康で心豊かな生活を送るためには、健全な食生活を実践し、おいしく楽しく食べることやそれを支える社会や環境を持続可能なものにしていくことが重要です。

しかし、食をめぐる環境は時代とともに変化し続けており、高齢化が進行する中、健康寿命の延伸や生活習慣病の予防のため、栄養バランスに配慮した食生活の重要性は増えています。また、人口減少や少子高齢化、世帯構成の変化や中食市場の拡大が進行するとともに、食に関する国民の価値観やライフスタイル等の多様化が進み健全な食生活を送ることが困難な場面も増えています。

国では平成 17 年 6 月に「食育基本法」を定め、平成 18 年に「食育推進基本計画」を策定しました。以降、5 年ごとに見直しを行い、令和 3 年には「第 4 次食育推進基本計画」を策定して食育を推進し続けています。

また、農業者の高齢化・減少も進み日本では食料の多くを海外からの輸入に頼っていますが、世界の食料生産及び供給は不安定な現状です。

このような社会情勢の変化を踏まえ、生涯にわたる世代に応じた間断ない「食育」を今後更に進める必要があります。また、海外依存による食料自給率の低下や、農業衰退による地域生活環境の悪化も懸念されており、「地産地消」も計画に位置付け、一体的に推進していく必要があります。

本計画では、以上の状況を踏まえ、本市の食育、地産地消の取組を今まで以上に組織的・効果的に推進することをねらいとして「西之表市食育・地産地消推進計画（第 3 次）」を策定します。

（２）食育とは

食育とは、生きる上での基本であって、知育・徳育・体育の基礎となるものと位置づけられるとともに様々な経験を通じて「食」に関する知識と「食」を選択する力を習得し、健全な食生活を実現することができる人間を育てることを指します。

（３）地産地消とは

地域で生産された農産物をその地域で消費することです。また地域において供給が不足している農林水産物がある場合に、他の地域で生産された農林水産物を消費することも含まれます。消費者の安全性に対する関心は高く、旬の新鮮で安全な食材を提供できる直売所や朝市が注目されています。

（４）計画の位置づけ

この計画は、食育基本法第 18 条及び六次産業化・地産地消法第 41 条に基づき作成するもので、国の「食育推進基本計画」及び「地域の農林水産物の利用の促進に関する基本方針」並びに鹿児島県の「かごしまの“食”交流推進計画」に沿った市推進計画とします。

なお、第 7 次西之表市長期振興計画等、西之表市における他の計画との整合性を図りながら、総合的かつ計画的に推進します。

（５）計画期間

この計画の期間は、令和８年度から令和１２年度までの５年間とします。ただし、今後の社会情勢や環境の変化を考慮し、計画の変更が必要になった場合には、計画期間内においても見直しを行うこととします。

（６）計画における各分野の役割

食育の推進は、あらゆる年齢層において、市民一人ひとりが主体的に取り組む必要があるとともに、家庭、保育園、幼稚園、学校、地域、各種団体、行政のそれぞれが協働し、環境整備をしていくことが重要です。そのためには、それぞれの分野で役割を設定し、「食育」を支える仕組みを総合的に考えていく必要があります。

① 家庭の役割

家庭は、食育を実践する一番身近な場として、重要な役割を担っています。食育への関心と理解を深め、健全な食習慣の確立を図るとともに、学校等や地域など様々な活動に積極的に参画していきます。

② 地域の役割

地域は、私たちが互いに支え合い生活する場です。健康でいきいきと暮らしていくため、食育運動が地域全体に定着するよう、地域ぐるみの取組を進めます。

③ 学校等の役割

学校等（小中学校、高校、幼稚園・保育園）は、健康な心身を養う学び合いの大切な場です。子どもの健やかな心と身体の発育のため、成長に応じた豊かな食の体験を積み重ねていきます。

④ 生産者及び事業者の役割

生産者は、農林水産業体験などを提供し、子どもたちに食物の生産過程を教え、自然の恩恵と食に関わる人々の仕事についての理解を深めてもらいます。また、学校給食などへの地元食材の供給など、地産地消の取組にも努めるものとします。

事業者は、消費者に食物を届ける立場です。消費者が食物を選ぶ際のアドバイザーとして、食と農林水産業を消費者とつなぐ架け橋となり食を提供していきます。

⑤ 関係団体・ボランティア団体の役割

関係団体・ボランティア団体は、専門性を持った人材や機能を活かし、安心・安全な食の情報や食の大切さ、食生活改善の啓発、食と農林水産業の関わり、食文化など、食に関する様々な情報提供や体験・交流を展開していきます。

⑥ 行政の役割

行政（市）は、国や県の関係機関をはじめ、家庭や学校、地域、生産者、事業者、関係団体・ボランティア団体等と連携を密にしながら、本市の特長を活かした取組を進めていきます。

（７）計画の評価について

本計画の最終年度（令和１２年度）にアンケート調査等を行い、達成状況を評価分析し、次期計画に反映させることとします。

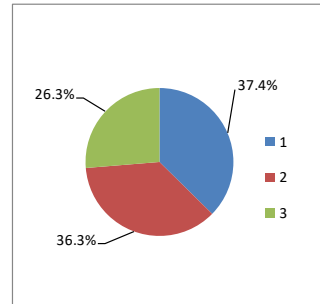
第三章 食をめぐる課題

(1) 食育・地産地消をめぐる現状

本計画を策定するにあたり、令和7年に市内の小学校6年生、中学校2年生、高校2年生及び一般市民へアンケートを実施しました。このアンケート調査結果をもとにした西之表の現状は以下のとおりです。

問1 あなたの学年を教えてください。

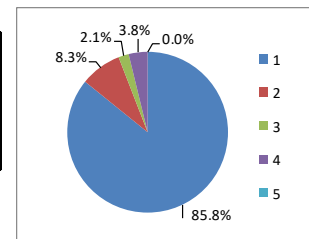
	人数	割合(%)
1.小学6年生	108	37.4%
2.中学2年生	105	36.3%
3.高校2年生	76	26.3%



問2 あなたは、毎日朝ごはんを食べますか？

	小学生	割合(%)	中学生	割合(%)	高校生	割合(%)	合計(289名)	割合(%)
1.毎日食べる	100	92.6%	87	82.9%	61	80.3%	248	85.8%
2.週4～6日	6	5.6%	12	11.4%	6	7.9%	24	8.3%
3.週2～3日	2	1.9%	2	1.9%	2	2.6%	6	2.1%
4.ほとんど食べない	0	0.0%	4	3.8%	7	9.2%	11	3.8%
5.無回答	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%

全体で「毎日食べる」と回答した人は、85.8%となっていますが、小学生・中学生・高校生と年齢が上がるにつれて割合が減っています。
また、高校生に関しては約1割の生徒が「ほとんど食べない」という回答でした。前日夕食後から給食まで何も食べていない状況も考えられることから、身体への影響が懸念されます。

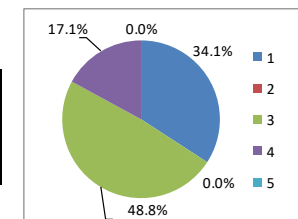


問3 問2で「2、3、4」と答えた人に質問します。

朝ごはんを食べない時の一番の理由は何ですか？

	小学生	割合(%)	中学生	割合(%)	高校生	割合(%)	合計(289名)	割合(%)
1.食欲がないから	4	50.0%	7	38.9%	3	20.0%	14	34.1%
2.太ると思っているから	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
3.時間がないから	3	37.5%	6	33.3%	11	73.3%	20	48.8%
4.その他	1	12.5%	5	27.8%	1	6.7%	7	17.1%
5.無回答	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%

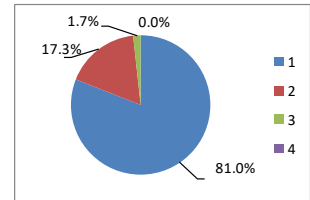
毎日朝ごはんを食べない人のうち、「時間がないから」と答えた人が、半数近く占めています。また、その他の回答では、「土日は食べない(昼まで寝ている)」という回答がありました。規則正しい生活習慣に見直し、朝食の時間を確保する取組が求められます。



問4 1日3食しっかりと食べていますか？

	小学生	割合(%)	中学生	割合(%)	高校生	割合(%)	合計(289名)	割合(%)
1.毎日食べている	95	88.0%	84	80.0%	55	72.4%	234	81.0%
2.ときどき食べていない	13	12.0%	18	17.1%	19	25.0%	50	17.3%
3.ほとんど食べていない	0	0.0%	3	2.9%	2	2.6%	5	1.7%
4.無回答	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%

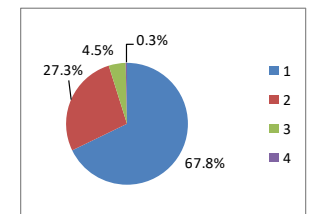
1日3食しっかりと食べていますかという問いに対して「毎日食べている」が81%となっていますが、小学生・中学生・高校生と年齢が上がるにつれて減少しています。食事の重要性を理解してもらうための取組が必要です。



問5 食事(朝・夕)は家族と食べていますか？

	小学生	割合(%)	中学生	割合(%)	高校生	割合(%)	合計(289名)	割合(%)
1.はい	79	73.1%	70	66.7%	47	61.8%	196	67.8%
2.ときどき一人で	25	23.1%	30	28.6%	24	31.6%	79	27.3%
3.ほとんど一人で	4	3.7%	4	3.8%	5	6.6%	13	4.5%
4.無回答	0	0.0%	1	1.0%	0	0.0%	1	0.3%

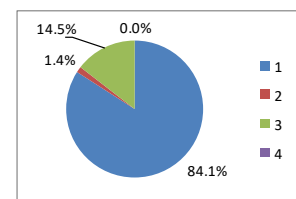
食事(朝・夕)は家族と食べていますかという問いに対して「ときどき一人で」「ほとんど一人で」の回答を合わせて31.8%となっています。食事を家族団らんの場ととらえ、家族そろって食事をする心を心がけていくことが重要です。



問6 食事は楽しいですか？

	小学生	割合(%)	中学生	割合(%)	高校生	割合(%)	合計(289名)	割合(%)
1.はい	89	82.4%	87	82.9%	67	88.2%	243	84.1%
2.いいえ	1	0.9%	2	1.9%	1	1.3%	4	1.4%
3.どちらでもない	18	16.7%	16	15.2%	8	10.5%	42	14.5%
4.無回答	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%

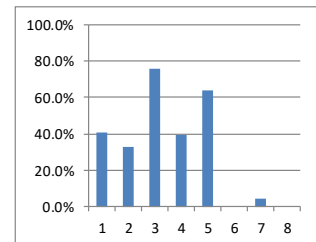
食事は楽しいですかという問いに対して8割以上が「はい」と答えています。また、小学生・中学生・高校生と年齢が上がるにつれて割合は上昇し、小学生と高校生では、5%以上の差がありました。問5と関連しますが、楽しい食事の場の雰囲気作りが必要です。



問7 食事に關してどのような手伝いをしていますか？手伝いをしているもの全てに○をつけてください。

	小学生	割合(%)	中学生	割合(%)	高校生	割合(%)	合計(289名)	割合(%)
1.買い物	44	40.7%	40	38.1%	34	44.7%	118	40.8%
2.料理の手伝い	41	38.0%	31	29.5%	23	30.3%	95	32.9%
3.テーブルの準備(配膳)	86	79.6%	81	77.1%	51	67.1%	218	75.4%
4.皿洗い	48	44.4%	38	36.2%	28	36.8%	114	39.4%
5.テーブルの後かたづけ	72	66.7%	67	63.8%	46	60.5%	185	64.0%
6.その他	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
7.しない	5	4.6%	0	0.0%	7	9.2%	12	4.2%
8.無回答	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%

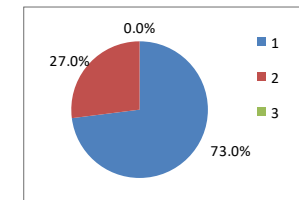
食事に關してどのような手伝いをしていますかという質問に対して、9割以上の生徒が何かしら食事の手伝いをしています。最も多かったのが「テーブルの準備(配膳)」で75.4%、次に「テーブルの後かたづけ」が64%と多くなっています。
また、全体のうち「しない」が4.2%となっており、高校生では9.2%となっています。学校・家庭の両面で食の知識・技術を身に付ける取組が必要です。



問8 健康を考えて、好き嫌いをせずに食事ができていますか？

	小学生	割合(%)	中学生	割合(%)	高校生	割合(%)	合計(289名)	割合(%)
1.できている	74	68.5%	77	73.3%	60	78.9%	211	73.0%
2.できていない	34	31.5%	28	26.7%	16	21.1%	78	27.0%
3.無回答	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%

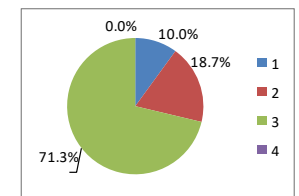
健康を考えて、好き嫌いをせずに食事ができていますか、という問いに対して「できている」が73.0%となっています。なお、小学生・中学生・高校生と年齢があがるにつれて「できている」の割合は増えています。健康な食生活への理解促進を図っていく必要があります。



問9 「食事バランスガイド」を知っていますか？

	小学生	割合(%)	中学生	割合(%)	高校生	割合(%)	合計(289名)	割合(%)
1.知っている	6	5.6%	9	8.6%	14	18.4%	29	10.0%
2.見たことはあるが意味はわからない	15	13.9%	23	21.9%	16	21.1%	54	18.7%
3.知らない	87	80.6%	73	69.5%	46	60.5%	206	71.3%
4.無回答	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%

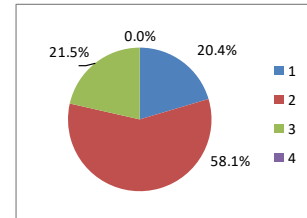
「食事バランスガイド」を意味まで知っていると答えた人は、全体の1割になっています。また、小学生のうち、8割は「知らない」という回答結果でした。健康な食生活を同時に「食育」についても理解促進を図っていく必要があります。



問10 食育という言葉を知っていますか？

	小学生	割合(%)	中学生	割合(%)	高校生	割合(%)	合計(289名)	割合(%)
1.言葉も意味も知っている	24	22.2%	13	12.4%	22	28.9%	59	20.4%
2.言葉は知っているが意味はわからない	57	52.8%	67	63.8%	44	57.9%	168	58.1%
3.知らない	27	25.0%	25	23.8%	10	13.2%	62	21.5%
4.無回答	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%

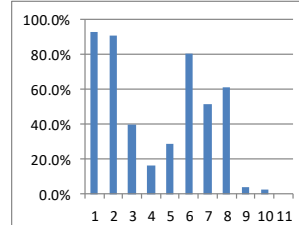
食育という言葉を知っていますかという問いに対して「言葉も意味も知っている」が20.4%となっています。「言葉は知っているが意味はわからない」、「知らない」が合わせて79.6%となっています。問8・問9と同様、食育についても理解促進を図っていく必要があります。



問11 種子島の特産物(農林水産物)を知っていますか？ また、その他にも知っている特産物があれば記入してください。

	小学生	割合(%)	中学生	割合(%)	高校生	割合(%)	合計(289名)	割合(%)
1.さとうきび	96	88.9%	100	95.2%	72	94.7%	268	92.7%
2.からいも(安納芋)	96	88.9%	96	91.4%	70	92.1%	262	90.7%
3.スナップえんどう(豆類)	41	38.0%	40	38.1%	33	43.4%	114	39.4%
4.早場米	12	11.1%	24	22.9%	11	14.5%	47	16.3%
5.牛乳	30	27.8%	26	24.8%	28	36.8%	84	29.1%
6.きびなご(魚)	78	72.2%	87	82.9%	67	88.2%	232	80.3%
7.ながらめ(貝)	38	35.2%	56	53.3%	55	72.4%	149	51.6%
8.茶	62	57.4%	62	59.0%	52	68.4%	176	60.9%
9.その他	2	1.9%	8	7.6%	2	2.6%	12	4.2%
10.知らない	3	2.8%	3	2.9%	2	2.6%	8	2.8%
11.無回答	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%

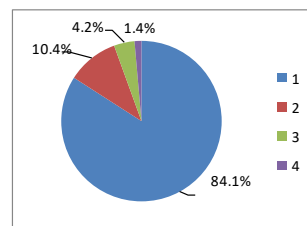
種子島の特産物(農林水産物)を知っていますかという問いに対して小中高いずれも「さとうきび」「からいも(安納芋)」「きびなご」が上位を占めています。また、高校生のうち、「ながらめ(貝)」を特産物と知っていると答えた人は72.4%であり、小学生や中学生と比べ多数が知っていることがわかりました。今後の農林水産業振興のため、その他の種子島の農林水産物についても知ってもらう機会を作る必要があります。また、その他の回答では、「トビウオ」「ニガダケ」「パッションフルーツ」「車海老」「レザリーフファン」が挙げられました。



問12 「地産地消」という言葉を知っていますか？

	小学生	割合(%)	中学生	割合(%)	高校生	割合(%)	合計(289名)	割合(%)
1.言葉も意味も知っている	82	75.9%	92	87.6%	69	90.8%	243	84.1%
2.言葉は知っているが意味はわからない	16	14.8%	10	9.5%	4	5.3%	30	10.4%
3.知らない	7	6.5%	3	2.9%	2	2.6%	12	4.2%
4.無回答	3	2.8%	0	0.0%	1	1.3%	4	1.4%

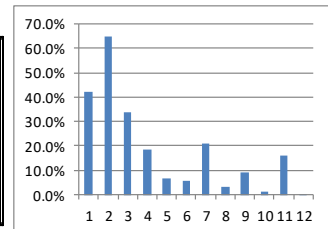
地産地消という言葉を知っていますかという問いに対して「言葉も意味も知っている」が84.1%となっており、多くの子どもたちが理解できていることがわかりました。なお、高校生は9割以上が「言葉も意味も知っている」と答えていました。引き続き、「地産地消」についても理解促進を図っていく必要があります。



問13 農林水産業の体験をしたことがありますか？

	小学生	割合(%)	中学生	割合(%)	高校生	割合(%)	合計(289名)	割合(%)
1.田植え・稲刈り	43	39.8%	44	41.9%	35	46.1%	122	42.2%
2.野菜(さつまいも等)の植え付けや収穫	73	67.6%	63	60.0%	52	68.4%	188	65.1%
3.さとうきびの収穫	33	30.6%	33	31.4%	32	42.1%	98	33.9%
4.家畜(肉用牛・乳牛)の世話	16	14.8%	19	18.1%	18	23.7%	53	18.3%
5.地引網漁	7	6.5%	5	4.8%	7	9.2%	19	6.6%
6.漁船漁	0	0.0%	9	8.6%	7	9.2%	16	5.5%
7.魚のさばき体験	26	24.1%	14	13.3%	20	26.3%	60	20.8%
8.植樹・植林	3	2.8%	1	1.0%	5	6.6%	9	3.1%
9.椎茸のこま打ち	4	3.7%	11	10.5%	11	14.5%	26	9.0%
10.その他	1	0.9%	1	1.0%	2	2.6%	4	1.4%
11.どれもしたことがない	20	18.5%	17	16.2%	9	11.8%	46	15.9%
12.無回答	0	0.0%	1	1.0%	0	0.0%	1	0.3%

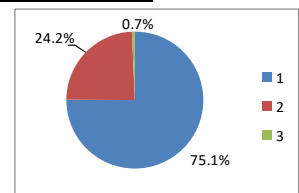
農林水産業の体験がありますかという問いに対して「野菜(さつまいも等)の植え付けや収穫」が65.1%、「田植え・稲刈り」が42.2%と順に割合が高いです。その他の回答では、「魚釣り体験」「茶のパロン(遮光シート)掛け」「薪割り」がありました。また、「どれもしたことがない」と答えた人が15.9%いました。引き続き、今後も本市の基幹産業である農林水産業の振興や食育の推進のためにも農林水産業体験の機会をつくっていく必要があります。



問14 これから(これから)問13のような体験をしたいと思いますか？

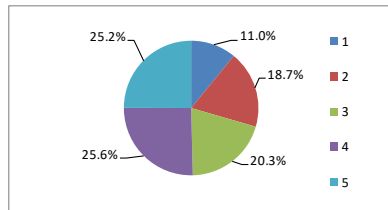
	小学生	割合(%)	中学生	割合(%)	高校生	割合(%)	合計(289名)	割合(%)
1.はい	82	75.9%	84	80.0%	51	67.1%	217	75.1%
2.いいえ	24	22.2%	21	20.0%	25	32.9%	70	24.2%
3.無回答	2	1.9%	0	0.0%	0	0.0%	2	0.7%

これから農林体験をしたいと思いますかという問いに対して「はい」が75.1%、「いいえ」が24.2%となっています。多くの児童・生徒が魅力を感じる多様な農林水産業体験メニューを作る必要があります。



問1 あなたの年代を教えてください。

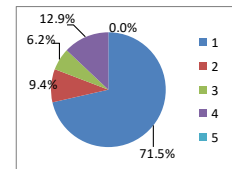
1.20代	70	11.0%
2.30代	119	18.7%
3.40代	129	20.3%
4.50代	163	25.6%
5.60代以上	160	25.2%



問2 あなたは、毎日朝食を食べますか？

	20代		30代		40代		50代		60代以上		合計	
	70名	割合 (%)	119名	割合 (%)	129名	割合 (%)	163名	割合 (%)	160名	割合 (%)	641名	割合 (%)
1.毎日食べる	32	45.7%	67	56.3%	100	77.5%	120	73.6%	139	86.9%	458	71.5%
2.週4～6日	14	20.0%	22	18.5%	9	7.0%	10	6.1%	5	3.1%	60	9.4%
3.週2～3日	7	10.0%	14	11.8%	8	6.2%	9	5.5%	2	1.3%	40	6.2%
4.ほとんど食べない	17	24.3%	16	13.4%	12	9.3%	24	14.7%	14	8.8%	83	12.9%
5.無回答	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%

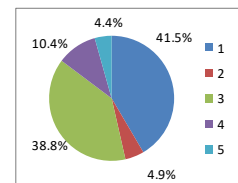
年齢が若い世代は毎日朝食を食べる人が約半数であることがわかりました。また、20代は約4人に1人は朝食を食べない傾向にあることがわかりました。



問3 問2で「2～4」のいずれかを選んだ方にお伺いします。朝食を食べないときの一番の理由は何ですか。

	20代		30代		40代		50代		60代以上		合計	
	38名	割合 (%)	52名	割合 (%)	29名	割合 (%)	43名	割合 (%)	21名	割合 (%)	183名	割合 (%)
1.食欲がないから	12	31.6%	18	34.6%	11	37.9%	24	55.8%	11	52.4%	76	41.5%
2.太っているから	2	5.3%	4	7.7%	1	3.4%	2	4.7%	0	0.0%	9	4.9%
3.時間がないから	21	55.3%	23	44.2%	12	41.4%	10	23.3%	5	23.8%	71	38.8%
4.その他	2	5.3%	4	7.7%	4	13.8%	5	11.6%	4	19.0%	19	10.4%
5.無回答	1	2.6%	3	5.8%	1	3.4%	2	4.7%	1	4.8%	8	4.4%

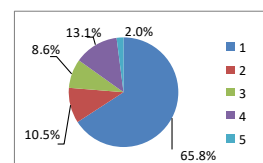
朝食を食べない理由として、若年層では時間がないと答える人が多く、年齢が上がると食欲不振を訴える方が多くみられました。「食欲」と「時間」の問題があることから朝食メニューの提案や朝食時間の確保の取組が必要です。
また、その他の回答では、「作るのが面倒」「仕事が終わってから(休日は食べない)」という理由もみられました。



問4 食事を家族と一緒に食べることは、どのくらいありますか。

	20代		30代		40代		50代		60代以上		合計	
	70名	割合 (%)	119名	割合 (%)	129名	割合 (%)	163名	割合 (%)	160名	割合 (%)	641名	割合 (%)
1.ほとんど毎日	31	44.3%	80	67.2%	94	72.9%	106	65.0%	111	69.4%	422	65.8%
2.週に4～5回	11	15.7%	15	12.6%	13	10.1%	19	11.7%	9	5.6%	67	10.5%
3.週に2～3回	9	12.9%	15	12.6%	10	7.8%	14	8.6%	7	4.4%	55	8.6%
4.ほとんどない	17	24.3%	8	6.7%	10	7.8%	21	12.9%	28	17.5%	84	13.1%
5.無回答	2	2.9%	1	0.8%	2	1.6%	3	1.8%	5	3.1%	13	2.0%

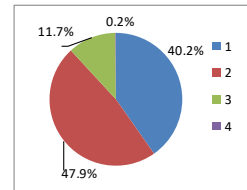
20代はほかの年代に比べて、家族と食べる習慣があまりないことがわかりました。また、30代～60代以上は6～7割の人がほとんど毎日家族で食事をとっていることがわかりました。若い世代へ食のコミュニケーションの重要性について理解促進を図っていく必要があります。



問5 健康づくりに配慮した(栄養バランスのとれた)食事を意識していますか。

	20代		30代		40代		50代		60代以上		合計	
	70名	割合(%)	119名	割合(%)	129名	割合(%)	163名	割合(%)	180名	割合(%)	641名	割合(%)
1.意識している	18	25.7%	36	30.3%	54	41.9%	67	41.1%	83	51.9%	258	40.2%
2.ときどき意識している	37	52.9%	66	55.5%	64	49.6%	82	50.3%	58	36.3%	307	47.9%
3.意識していない	15	21.4%	17	14.3%	11	8.5%	14	8.6%	18	11.3%	75	11.7%
4.無回答	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	0.6%	1	0.2%

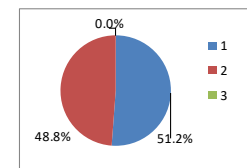
少なからず健康に配慮した食事を意識している人が、9割近くいることがわかりました。また、60代以上は半数以上と多くの人が、健康づくりに配慮した食事を意識している結果となりました。健康な食生活の理解促進を図る必要があります。



問6 「食事バランスガイド」を知っていますか。

	20代		30代		40代		50代		60代以上		合計	
	70名	割合(%)	119名	割合(%)	129名	割合(%)	163名	割合(%)	180名	割合(%)	641名	割合(%)
1.はい	40	57.1%	58	48.7%	68	52.7%	84	51.5%	78	48.8%	328	51.2%
2.いいえ	30	42.9%	61	51.3%	61	47.3%	79	48.5%	82	51.3%	313	48.8%
3.無回答	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%

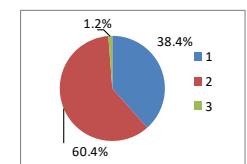
大した差はみられませんが、20代はほかの年代より、「知っている」と答えた人が57.1%であり、ほかの年代より多い傾向がみられました。どの年代も約半数が「知っている」という回答でした。これからも「食事バランスガイド」の啓発を図る必要があります。



問7 問6で「1. はい」と答えた人に質問します。「食事バランスガイド」を参考に食事や買い物をしていますか。

	20代		30代		40代		50代		60代以上		合計	
	40名	割合(%)	58名	割合(%)	68名	割合(%)	84名	割合(%)	78名	割合(%)	328名	割合(%)
1.はい	12	30.0%	16	27.6%	21	30.9%	39	46.4%	38	48.7%	126	38.4%
2.いいえ	28	70.0%	42	72.4%	47	69.1%	42	50.0%	39	50.0%	198	60.4%
3.無回答	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	3	3.6%	1	1.3%	4	1.2%

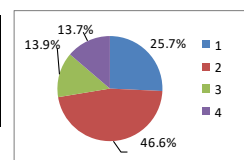
「食事バランスガイド」を知っていると答えた人のうち、食事や買い物の際に意識していると答えた人は、60代が一番多い傾向でした。食事バランスガイドを知っていても、食事や買い物の参考にしている人は4割と少ないことが分かります。食事バランスガイドについて活用方法の啓発を図る必要があります。



問8 生活習慣病の予防や改善のために、適正体重の維持や減塩などに気をつけた食生活をしていますか。

	20代		30代		40代		50代		60代以上		合計	
	70名	割合(%)	119名	割合(%)	129名	割合(%)	163名	割合(%)	180名	割合(%)	641名	割合(%)
1.気をつけている	17	24.3%	11	9.2%	28	21.7%	44	27.0%	65	40.6%	165	25.7%
2.ときどき気をつけている	28	40.0%	67	56.3%	64	49.6%	78	47.9%	62	38.8%	299	46.6%
3.気をつけていない	19	27.1%	15	12.6%	18	14.0%	16	9.8%	21	13.1%	89	13.9%
4.無回答	6	8.6%	26	21.8%	19	14.7%	25	15.3%	12	7.5%	88	13.7%

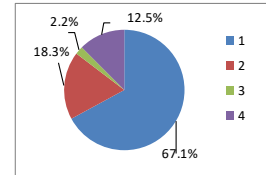
全体の数値を見ると、少なからず生活習慣病の予防や改善のために気をつけた食生活を7割以上が「気をつけている」、もしくは「ときどき気をつけている」と回答していました。



問9 あなたは、郷土料理や伝統料理など、地域や家庭で受け継がれてきた料理や味、箸づかいなどの食べ方・作法を受け継ぐことは大切だと思いますか。

	20代		30代		40代		50代		60代以上		合計	
	70名	割合(%)	119名	割合(%)	129名	割合(%)	163名	割合(%)	160名	割合(%)	641名	割合(%)
1.そう思う	47	67.1%	71	59.7%	88	68.2%	108	66.3%	116	72.5%	430	67.1%
2.どちらとも言えない	18	25.7%	22	18.5%	19	14.7%	29	17.8%	29	18.1%	117	18.3%
3.そう思わない	0	0.0%	3	2.5%	4	3.1%	3	1.8%	4	2.5%	14	2.2%
4.無回答	5	7.1%	23	19.3%	18	14.0%	23	14.1%	11	6.9%	80	12.5%

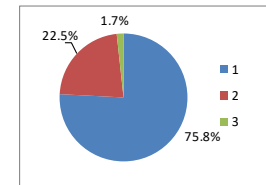
継承のために、校区の慰労会などで郷土料理を取り入れた方がいいという意見もありました。



問10 「食育」について関心がありますか？

	20代		30代		40代		50代		60代以上		合計	
	70名	割合(%)	119名	割合(%)	129名	割合(%)	163名	割合(%)	160名	割合(%)	641名	割合(%)
1.はい	42	60.0%	92	77.3%	104	80.6%	130	79.8%	118	73.8%	486	75.8%
2.いいえ	27	38.6%	26	21.8%	25	19.4%	31	19.0%	35	21.9%	144	22.5%
3.無回答	1	1.4%	1	0.8%	0	0.0%	2	1.2%	7	4.4%	11	1.7%

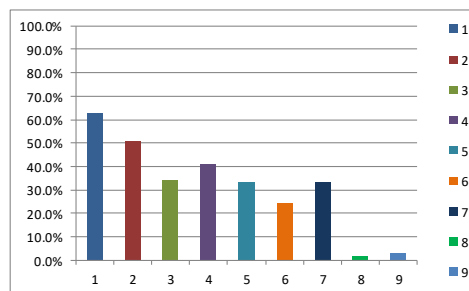
「食育」について関心がありますかという問いに対して、30代～60代以上は7～8割が関心があると回答していました。食育の意義について理解促進を図っていく必要があります。



問11 「食育」で重点的に取り組むべきことは何だと思いますか？(複数回答可)

	20代		30代		40代		50代		60代以上		合計	
	70名	割合(%)	119名	割合(%)	129名	割合(%)	163名	割合(%)	160名	割合(%)	641名	割合(%)
1.食生活習慣の改善	40	57.1%	73	61.3%	80	62.0%	109	66.9%	101	63.1%	403	62.9%
2.食の安全性に関する知識・理解	26	37.1%	55	46.2%	66	51.2%	93	57.1%	85	53.1%	325	50.7%
3.農林漁業とのふれあい(生産者等への感謝・理解、農林漁業に関する体験活動等)	19	27.1%	46	38.7%	58	45.0%	45	27.6%	50	31.3%	218	34.0%
4.郷土料理、伝統料理等の優れた食文化の継承	23	32.9%	44	37.0%	65	50.4%	72	44.2%	57	35.6%	261	40.7%
5.食を通じたコミュニケーション	22	31.4%	43	36.1%	51	39.5%	57	35.0%	39	24.4%	212	33.1%
6.食事に関するあいさつの励行や作法の習得	16	22.9%	29	24.4%	49	38.0%	35	21.5%	25	15.6%	154	24.0%
7.地元食材を使った調理体験	8	11.4%	41	34.5%	52	40.3%	52	31.9%	61	38.1%	214	33.4%
8.その他	0	0.0%	2	1.7%	4	3.1%	3	1.8%	0	0.0%	9	1.4%
9.無回答	5	7.1%	1	0.8%	4	3.1%	4	2.5%	5	3.1%	19	3.0%

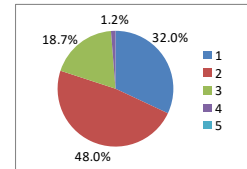
「食育で重点的に取り組むべきことは何だと思いますか」の問いに対して、最も多かったのは「食生活習慣の改善」62.9%、次に「食の安全性に関する知識・理解」50.7%、「郷土料理、伝統料理等の優れた食文化の継承」40.7%の順となりました。健全な食生活習慣への取組みや地産地消における情報発信など様々な取組を減らす取組や「バランスガイドに沿った献立の知識や理解力」などが挙げられていました。



問12 食材購入時に地場産の購入を意識していますか。

	20代		30代		40代		50代		60代以上		合計	
	70名	割合(%)	119名	割合(%)	129名	割合(%)	163名	割合(%)	160名	割合(%)	641名	割合(%)
1.意識している	13	18.6%	34	28.6%	41	31.8%	50	30.7%	67	41.9%	205	32.0%
2.ときどき意識している	34	48.6%	55	46.2%	69	53.5%	85	52.1%	65	40.6%	308	48.0%
3.意識していない	23	32.9%	30	25.2%	19	14.7%	26	16.0%	22	13.8%	120	18.7%
4.無回答	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	2	1.2%	6	3.8%	8	1.2%

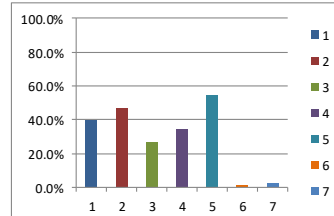
地場産物の購入を意識しているかという問いに対し、「意識している」もしくは「ときどき意識している」と答えた人は、80%でした。年代が若くなるにつれ、「意識していない」と答える人が増えています。特に若年層への地場産食材のPRと活用促進を図る必要があります。



問13 地産地消を推進する上でどのような取り組みが効果的だと思いますか。(最大3つまで)

	20代		30代		40代		50代		60代以上		合計	
	70名	割合(%)	119名	割合(%)	129名	割合(%)	163名	割合(%)	160名	割合(%)	641名	割合(%)
1.スーパー等での地場産コーナーの充実	48	65.7%	50	42.0%	53	41.1%	53	32.5%	53	33.1%	255	39.8%
2.学校給食における地場産物の利用	36	51.4%	47	39.5%	81	62.8%	78	47.9%	59	36.9%	301	47.0%
3.飲食店における地場産物の利用促進	19	27.1%	40	33.6%	43	33.3%	44	27.0%	25	15.6%	171	26.7%
4.地産地消フェア等のイベントの活用	30	42.9%	50	42.0%	43	33.3%	54	33.1%	43	26.9%	220	34.3%
5.地場産物直売所の充実	29	41.4%	57	47.9%	66	51.2%	90	55.2%	109	68.1%	351	54.8%
6.その他	0	0.0%	0	0.0%	2	1.6%	2	1.2%	3	1.9%	7	1.1%
7.無回答	0	0.0%	0	0.0%	1	0.8%	5	3.1%	6	3.8%	12	1.9%

地産地消を推進する上で効果的な取組について「スーパー等での地場産コーナーの充実」が39.8%、「地場産物直売所の充実」が54.8%など、地場産物購入の場の充実が求められていることが分かります。その他の意見では、「百貨市場の利用を高める」、「無料品、特売コーナーの設置」、「市場の活性化」が挙げられました。



(2) 数値目標の達成状況

重 点 目 標	前回 (R1 年度)	目 標	実績 (R7 年度)	達成 状況
朝食を食べている人（成人）	86%	90%	71%	×
朝食を食べている人（児童・生徒）	92%	95%	85%	×
食事バランスガイドを意識している人の割合	33%	50%	38%	△
食育に関心を持っている人	66%	80%	75%	△
地産地消について意識をしている人	77%	90%	80%	△

※実績が目標を達成している場合「○」、基準値と比較して改善している場合「△」、基準値と比較して悪化している場合「×」としています。

(3) 各分野での現在の取組

1. 行政

【市農林水産課】

○関係各課・団体との連携や調整

① 食育・地産地消に関する情報発信や関係各課・団体との連絡調整

○食育・地産地消の推進

① 起業組織の活動支援

② K－G A P等の食の安心・安全な生産システム構築の推進

③ グリーン・ツーリズムの推進への協力

【市経済観光課】

○地域特産物を活用した特産品の開発支援及び観光業との連携

○種子島デザイン「たねがしまる」の商標登録更新

○グリーン・ツーリズムの推進

○「西之表市生まれの黒毛和牛」のプロモーション

【市健康保険課】（保健センター すこやか）

○栄養士や食生活改善推進員と連携し、食に関するアドバイス等を行う地区指導活動

○広報誌（市政の窓）での食育啓発普及

○食生活改善推進員と連携し、イベントにおいて食育活動

【市教育委員会】

○市内各小・中学校における食育活動の実施

- ① 食育に関する授業の実施（給食センター栄養教諭）
- ② 行政と連携した体験活動の実施
- ③ 食育だよりの発行
- ④ 給食を通しての地産地消推進（地元食材の紹介等）
- ⑤ 「食に関する指導全体計画」の作成

○家庭と連携した食育活動の啓発

2. J A

○J Aアグリスクール会員及び保護者向けの食育活動（種子島全体）

作付から収穫までの農作業体験及び地域農産物を活用した料理教室

○J Aまつりの実施

○学校給食を通しての地元食材の提供（J A・振興会）

○こども食堂を通しての地元食材の提供

○各小学校と連携した作付から収穫までの農作業体験学習の実施

○行政と連携し、留学生と地元小学生の交流による収穫作業体験や収穫した食材での料理教室の実施

3. J A女性部

○地産地消運動の実施

- ① 家庭菜園品評会の実施
- ② 青空市場の実施（自家製野菜やもち米、しめ縄等を持ち寄り販売）

4. 漁協

○地元小学校で出前事業（魚の捌き方教室）の実施

○学校給食にブリやタルメ等の水産物を提供

第四章 食育・地産地消をめぐる今後の課題

食育・地産地消をめぐる今後の課題

食育・地産地消に関するこれまでの取組状況や、今回実施したアンケート調査の結果等を基に、西之表市における食育・地産地消について、以下のような課題が見えてきました。

(1) 食育について

○「食育」の理解について

市内の児童・生徒の約8割が「食育」の意味を理解できていないことがわかりました。市内の小学校では、食育に関する授業や農林体験教室を行っています。食育を理解できていない児童が多いため、食育の基本内容の更なる啓発・普及を行う必要があります。また、中学生に関しては小学生に比べ食育に触れる機会が少ないため、食育の場や情報の提供を行う必要があります。

○朝食の欠食について

中学生・高校生と年齢が上がるにつれて、朝食を欠食する割合が増えています。また、成人においても年齢が若い世代ほど朝食をほとんど食べていない人の割合が多いことがわかりました。食事がもたらす健康への影響について、児童・生徒にはもちろん、大人にも理解してもらえる活動を行っていく必要があります。

○「食事バランスガイド」の理解・活用について

5割の人が「食事バランスガイド」を知らず、知っている人の中でも食事や買い物の参考にしている人は4割と活用している人が少ないため、具体的な活用方法を情報提供していく必要があります。

(2) 地産地消について

「地産地消」の理解について

今回の調査では市内の児童・生徒の8割が「地産地消」の意味が理解できていることがわかりました。今後も引き続き意味まで理解してもらえるよう更なる普及・啓発活動を行っていく必要があります。大人に関しては8割の人が意識して地元食材を購入していることがわかりました。

また、地産地消を推進する上では、地場産購入の場の充実が求められていることがわかりました。

(3) 農林水産業体験について

種子島の基幹作物の認知度について、多いものでは児童・生徒の9割以上が知っているという回答があります。その背景には、8割以上の児童・生徒が農林水産業の体験をしているなど、農林水産業へ触れる機会が多いことが挙げられます。今後も積極的に体験できる場の提供を行い、農林水産業体験メニューの充実を図っていく必要があります。

第五章 具体的な対策と取組

（１）食育・地産地消に関する基本理念

本市では、国・県の基本理念を基にして本市の地域性を踏まえ、食育・地産地消推進にあたっての基本理念を次のとおり定め、取組を進めていくこととします。

基本理念は、「西之表市が将来に向けてどのような考え方を基に、食育・地産地消を推進していくのか。」という基本となるものです。

食育・地産地消基本理念

『島の宝をいかす！！西之表市の健康で豊かな食』

（２）食育・地産地消に関する基本方針

・ 健康な食生活の普及、定着の促進

食育の重要性など、食育の理解促進を図ります。

・ 地域農林水産物の活用促進

地産地消の理解促進と体制づくり（システムづくり）に努めます。

・ 農林水産業体験を通じた「食」の理解促進

地域農林水産業や伝統的な食文化を体験する場の充実を図ります。

私たちが暮らしていくうえで欠かすことができないのが「食」です。これまで私たちの食生活は、米を中心としたバランスの良い健康的なものでしたが、社会・経済状況の変遷により、食に関する環境は大きく変わってきています。西之表市の食生活の現状は、概ね良いですが、不規則な食生活、生活習慣病の増加、食育・地産地消に対する理解不足など様々な問題があります。

そのような中、島の宝である子どもたちが健康な心と体を培うとともに、全市民が心身の健康を確保し、生涯にわたって生き生きと暮らすことが出来るよう体制づくりを進めます。そのために関係機関・団体が一体となって『健康な食生活の普及、定着の促進』『地域農林水産物の活用促進』『農林水産業体験を通じた「食」の理解促進』を図る取組を提供し、地産地消を基本とした健康な食生活を実践できるよう、食育・地産地消を推進します。

（３）各分野の推進内容

１．行政

児童・生徒への影響が大きい家庭・学校への普及・啓発活動を充実させ、本市の食育及び地産地消の推進を図っていきます。

【市農林水産課】

- 食育、地産地消に関する情報発信や関係各課、団体との連絡調整
- 地産地消推進協議会の運営
- 地産地消システム構築の推進
- 食農教育支援
- 生産農家に対する「食の安心・安全」の推進
- グリーン・ツーリズムの推進への協力

【市経済観光課】

- 地域特産物を活用した特産品の開発支援及び観光業との連携
- グリーン・ツーリズムの推進
- 「西之表生まれの黒毛和牛」のプロモーション
- 種子島特産品協会と連携した地産地消の推進

【市健康保険課（保健センター すこやか）】

- 栄養士や食生活改善推進員と連携し、食に関するアドバイス等を行う地区指導活動
- 広報誌（市政の窓）での食育啓発普及
- 食生活改善推進員と連携し、イベントにおいて食育活動

【市教育委員会】

- 市内小・中学校における食育活動の実施
 - ① 食育に関する授業の実施（給食センター栄養教諭）
 - ② 行政と連携した体験活動の実施
 - ③ 食育だより（毎月）の発行
 - ④ 給食を通しての地産地消推進（地元食材の紹介等）
 - ⑤ 「食に関する指導全体計画」の作成
- 家庭へ向けた食育活動の啓発普及

2. J A

- J A アグリスクール会員及び保護者向けの食育活動（種子島全体）
作付から収穫までの農作業体験及び地域農産物を活用した料理教室
- J A まつりの実施
- 学校給食を通しての地元食材の提供（J A ・振興会）
- こども食堂を通しての地元食材の提供
- 各小学校と連携した作付から収穫までの農作業体験学習の実施
- 行政と連携し、留学生と地元小学生の交流による収穫作業体験や収穫した食材での料理教室の実施

3. J A 女性部

- 地産地消運動の推進
 - ① 家庭菜園品評会の実施
 - ② 青空市場の実施（自家製野菜やもち米、しめ縄等を持ち寄り販売）

4. 漁協

- お魚祭りの実施
- 関係機関と連携した出前授業の実施
- 学校給食への水産物提供
- 地魚フェアへの水産物提供

（４）重点目標と目標数値

以下のような重点目標と目標数値を設定し、行政と関係機関・団体が一体となって、食育・地産地消についての取組みを推進してまいります。

重 点 目 標		現状数値 (R8 年 3 月時点)	目標数値 (R12 年度)
1	朝食を食べている人（成人）	71%	90%
2	朝食を食べている人（児童・生徒）	85%	95%
3	食事バランスガイドを知っている人のうち意識までしてる人	38%	50%
4	食育に関心を持っている人	75%	80%
5	地産地消について意識をしている人	80%	90%